【別添4】事業概要のまとめ（日本語版）

作成日：令和7年5月12日

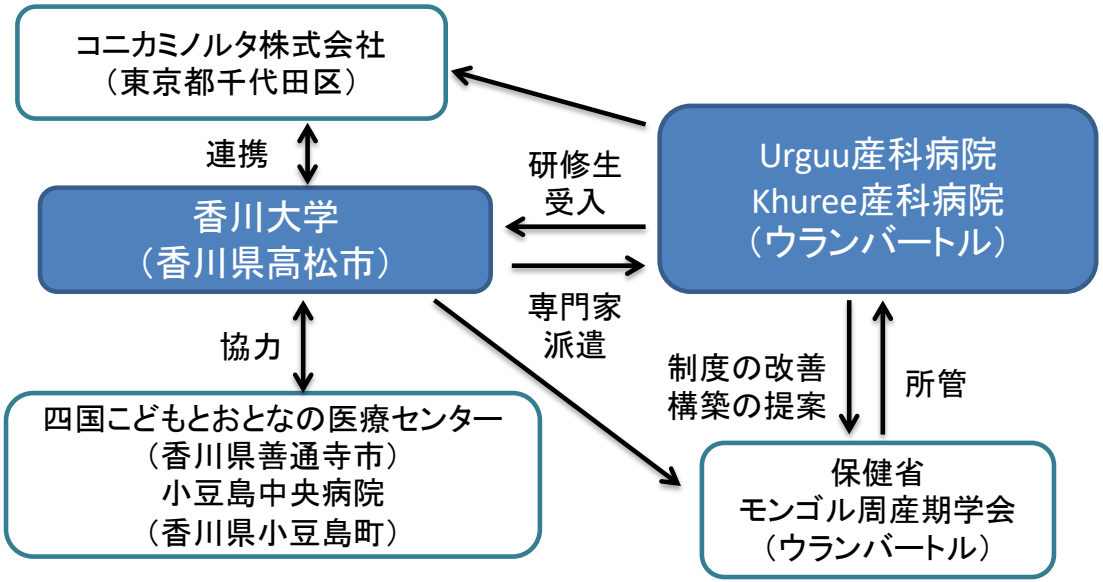
モンゴル国における新生児黄疸スクリーニングシステムの構築

【現地の状況やニーズなどの背景情報】モンゴルにおける新生児死亡率は、改善傾向にあるが不十分とされる。新生児医療における新生児黄疸管理の負担は大きく、管理方法の改善が望まれている。

【事業目的】日本製経皮黄疸計と生後時間ノモグラムを用いた、新生児黄疸スクリーニングシステムの確立

【事業の概要】香川大学を中心とし、新生児医療専門家などの派遣、本邦研修の受け入れ、医師以外の医療者も対象とした研修を行う。モンゴル周産期学会の協力を得て、Urguu産科病院、Khuree産科病院において現地状況の確認、現地研修を行う。

【期待される成果とその後の波及効果】日本からの専門家により、モンゴル医療者（医師、看護師、助産師）に経皮黄疸計の使用方法と記録、評価方法について講義、ワークショップ、実地研修を行い、全ての新生児に非侵襲的な黄疸スクリーニングを3年間かけ、2病院で確立する。その後、モンゴル国内に展開する。



＜研修スケジュール予定＞

7月　専門家派遣（6名）
- 経皮黄疸計に関するセミナー開催
- 黄疸管理、記録方法のワークショップ開催

9月　専門家派遣（3名）
- 経皮黄疸計に関するセミナー開催
- 黄疸管理、記録方法の確認

12月　研修生受入（13名）
- 日本の新生児黄疸スクリーニングの実技研修